

夏の高気圧と負渦度領域に覆われ

この夏一番！連日のダクトオ - プン！

2000年 8月29日 ~ 31日 JG0TEV 中村 豊

1.はじめに

既に掲載しました8月24日～27日にかけてのオ - プンに続いて、29日～31日にかけてもダクトが発生、オ - プンとなりました。

この期間の特徴は太平洋高気圧の勢力が強まったことと、高気圧に伴う負渦度領域に覆われたことによってダクトが発生しやすい状態にあったといえます。

今回のオ - プンについて気象解析を行うとともにダクト発生 の裏付けを行います。



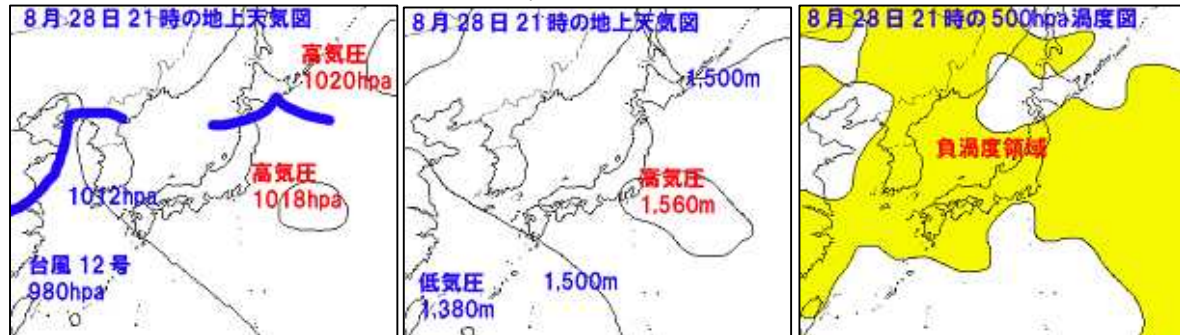
2.気象解析～ダクト発生についての裏付け

ダクト発生前日の28日から31日にかけての気象状況の推移についてまとめます。

8月28日の気象状況

北日本を気圧の谷が通過しました。

日本付近の上空では高気圧に覆われ、また高気圧に伴う負渦度領域に覆われていたためにダクトが発生しやすい環境が整っています。

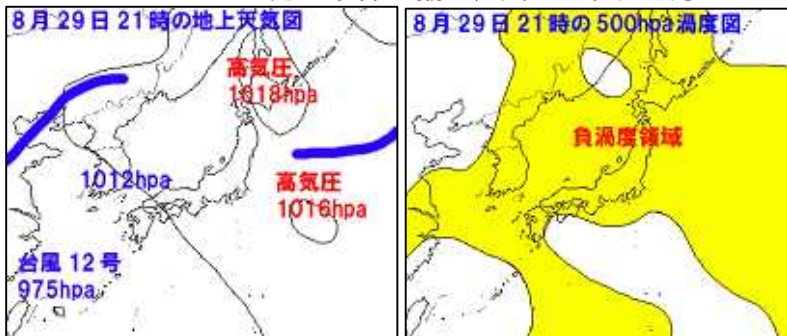


8月29日の気象状況

気圧の谷が通過した北日本で高気圧に覆われました。

北日本から東日本にかけては高気圧に覆われるとともに負渦度領域にも覆われ続けました。

これによってダクトの発生条件が揃い、北陸～東北地方でダクト発生によるオ - プンとなりました。

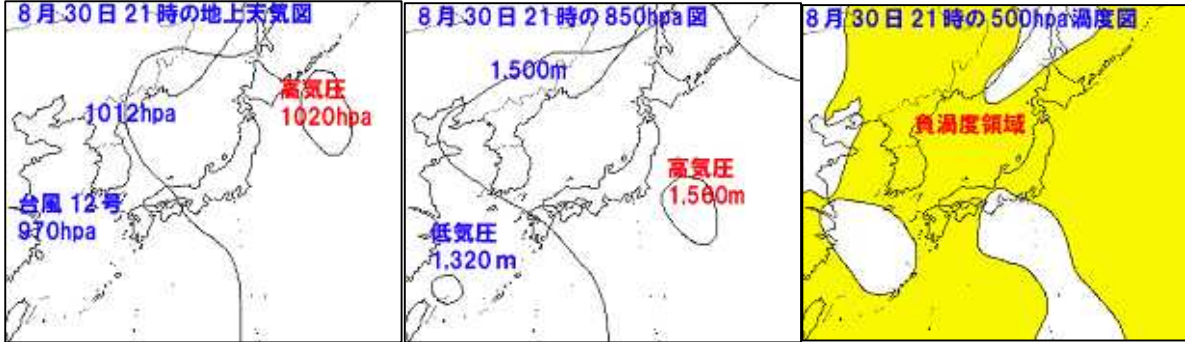


8月30日の気象状況

引き続き高気圧は北日本から東日本を覆いました。

高気圧に伴う負渦度領域も日本付近を覆いつづけました。

このことからダクトが発生する条件が揃い北陸～東北地方でダクト発生によるオ - プンとなりました。

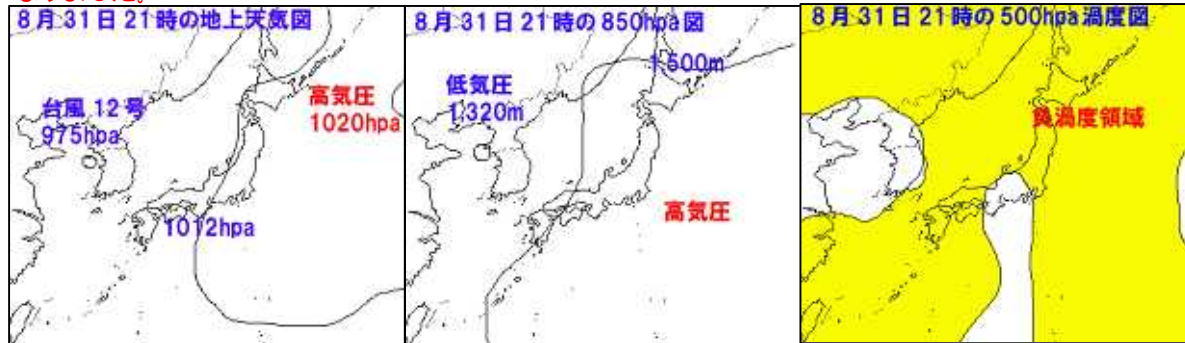


8月31日の気象状況

高気圧の中心は北海道の張るか東海上に遠ざかりましたが、東日本や北日本では高気圧の勢力が残りしました。

負渦度領域も北日本を中心に広がりました。

このことからダクトが発生する条件が揃い北陸～北海道にかけてダクト発生によるオ - プンとなりました。



3.最後に

今回(24日～31日)のオ - プンは今年6月15日～21日にかけての7日間連日オ - プンに相当する一週間という長期間に渡るオ - プンとなりました。

期間中は高気圧に覆われるとともに、高気圧に伴う負渦度領域に覆われ続けたことによってダクト発生の環境が整っていたことがあげられます。

さらに高気圧の勢力が一定の強さではなく「ゆらぎ」による「強弱」があったことがさらにダクトが発生しやすくなった要因として挙げられます。

(太平洋高気圧が日本付近をべったり覆って変化が無いときにはダクトは

冬場と同様に極めて出現しにくくなりますよね)

ただ、非常に残念なことは430MHz-FMバンドにQRVされている局が極めて少ないという状況に変わりは無くダクトの出現よりも空いて局を探し出すことに苦労してしまうことを実感しています。